

A decorative curved line on the left side of the page, composed of a white outer arc and a grey inner arc. Along this line are several small, colored squares: pink, orange, yellow, light green, light blue, and dark blue, arranged from top to bottom.

# I. 保健に関する統計

---

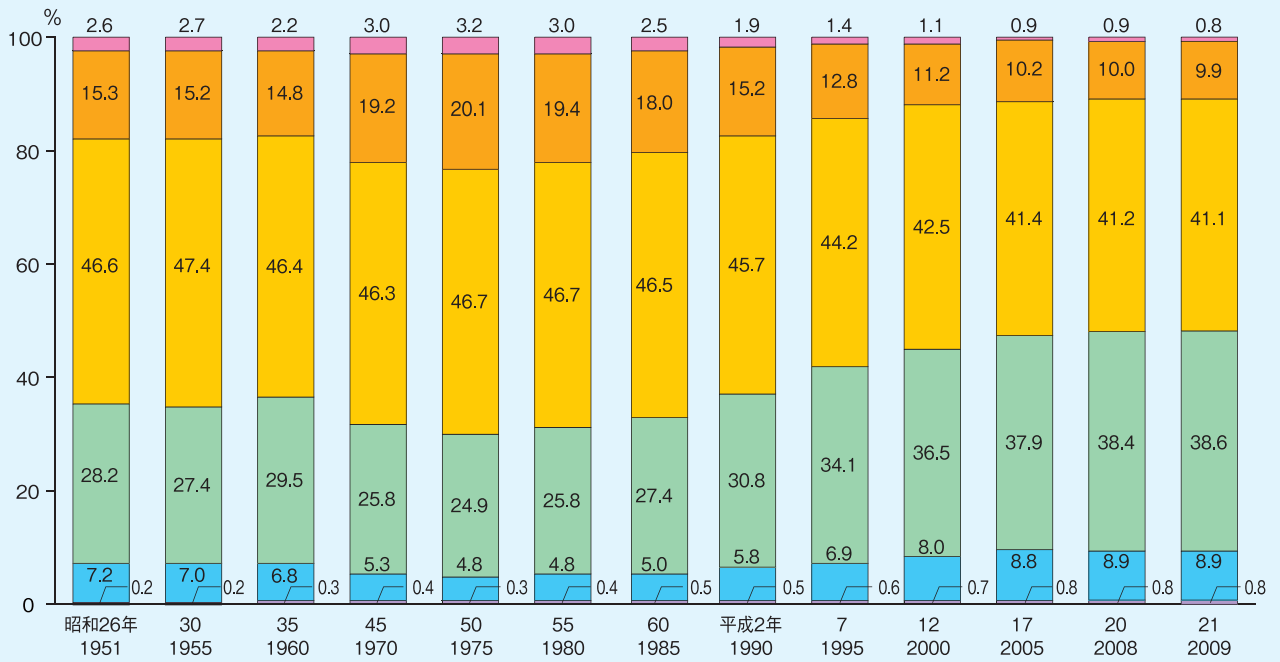
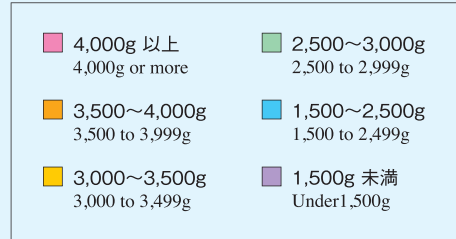
## Statistics Concerning Health

# I. 保健に関する統計 (Statistics Concerning Health)

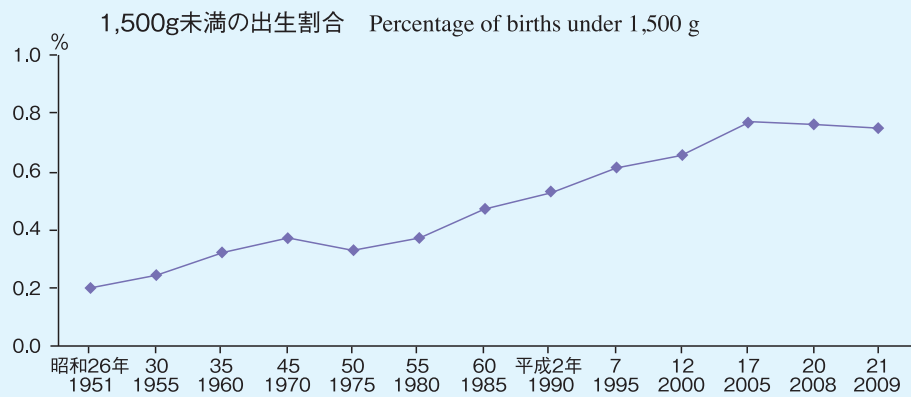
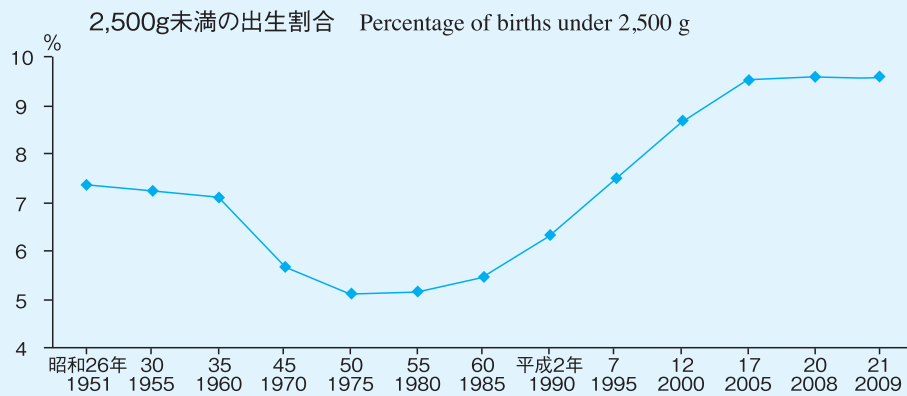
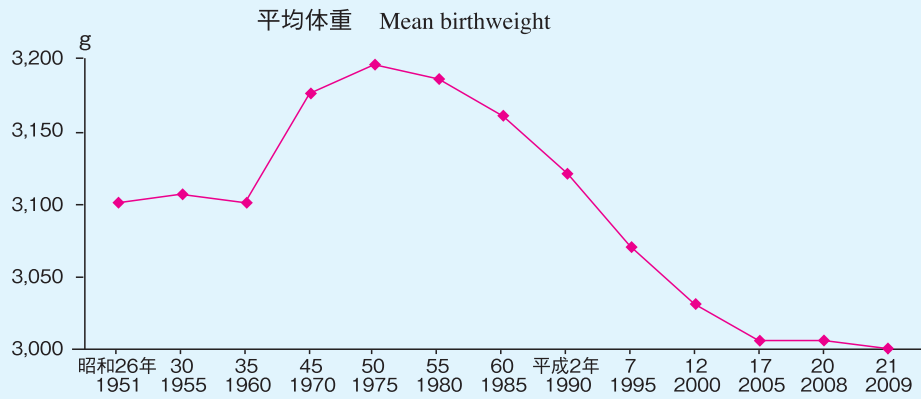
## 出生時体重 (Birthweight)

### (1) 年次別、出生時体重

Birthweight by year



(人口動態統計)  
(Vital Statistics of Japan)

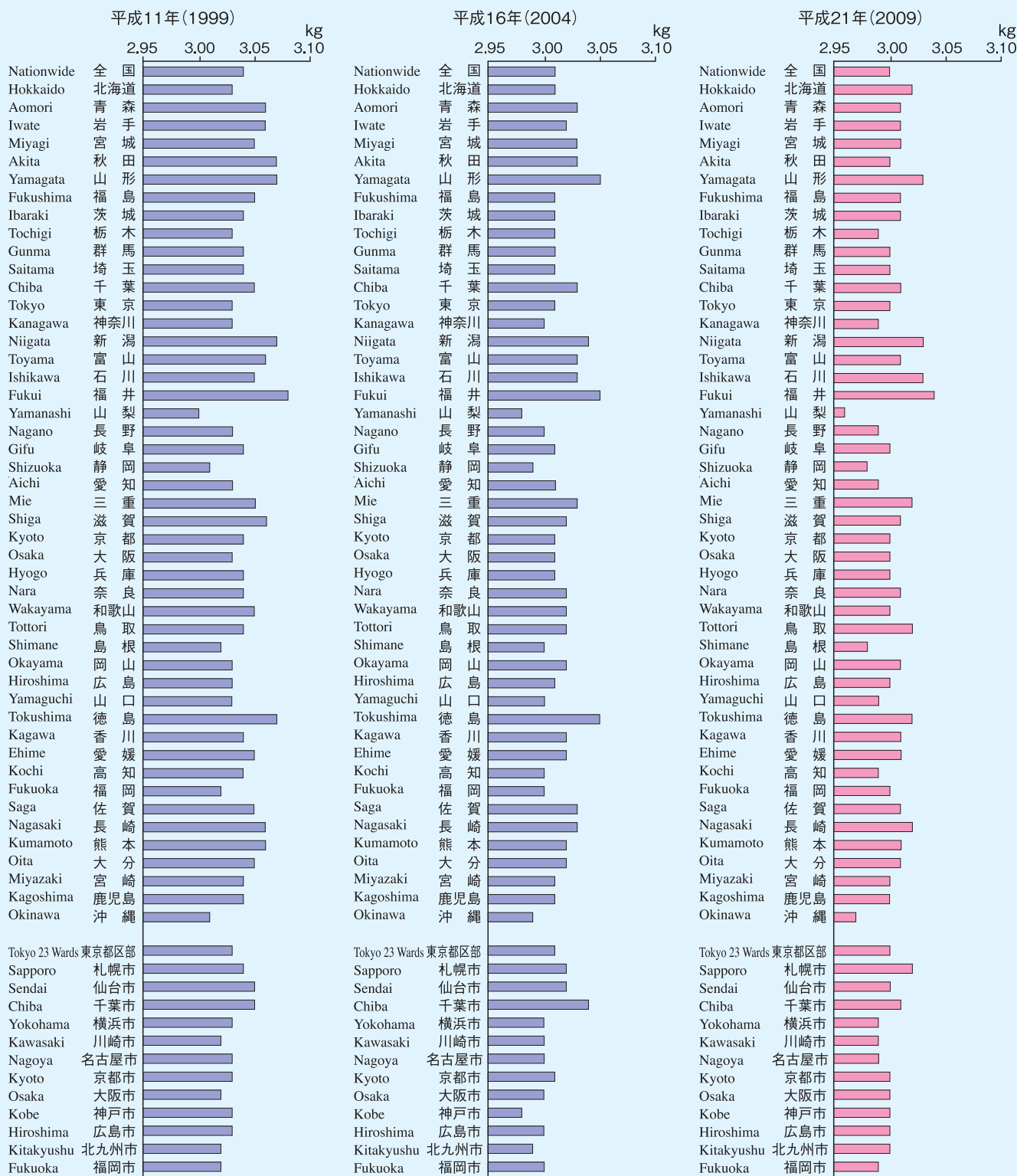


(人口動態統計)  
(Vital Statistics of Japan)

(2) 都道府県別、出生時の平均体重 (平成21年)

Mean birthweight by prefecture, 2009-1999

平成16年及び平成11年の結果は参考

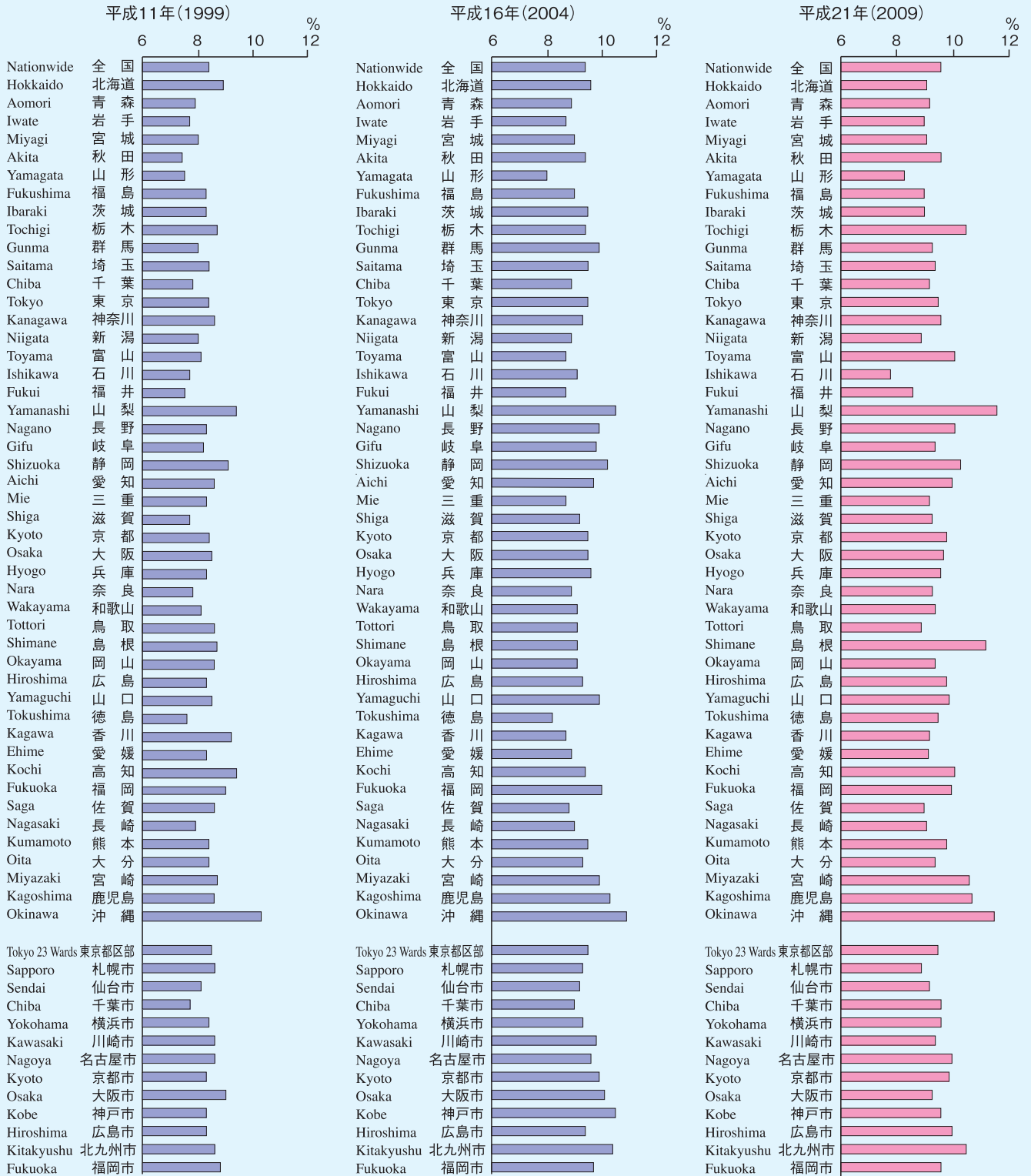


(人口動態統計) (Vital Statistics of Japan)

### (3) 都道府県別、2,500g未満の出生割合（平成21年）

Percentage of births under 2,500 g by prefecture, 2009-1999

平成16年及び平成11年の結果は参考

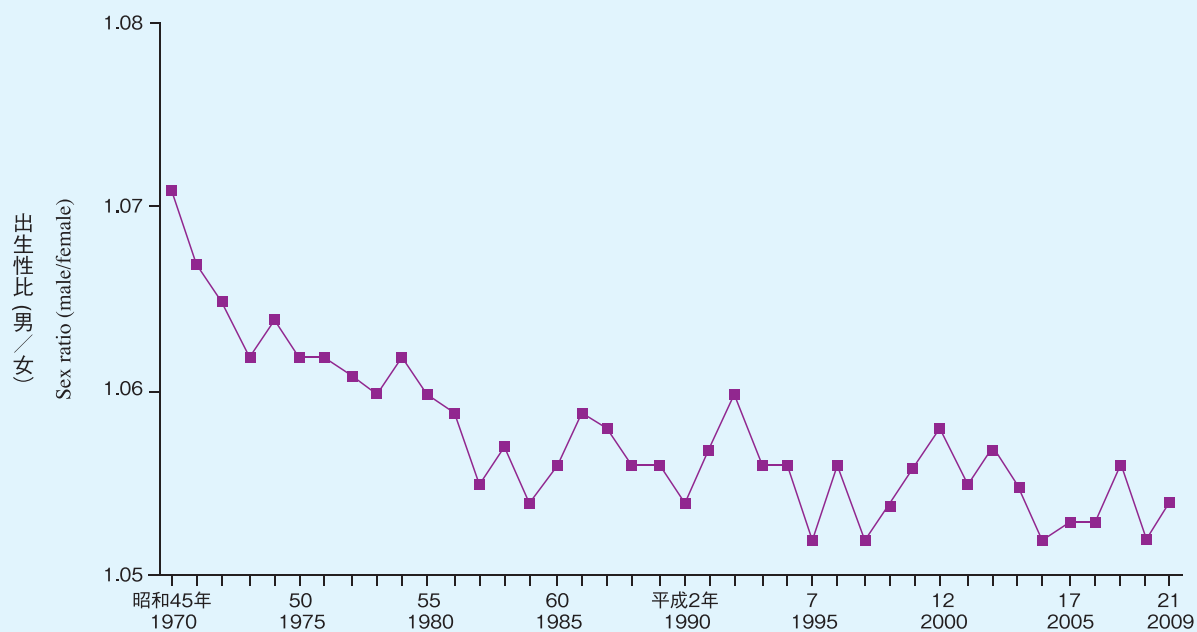


(人口動態統計) (Vital Statistics of Japan)

## 出生性比 (Sex Ratio)

### (4) 年次別、出生性比

Sex ratio by year



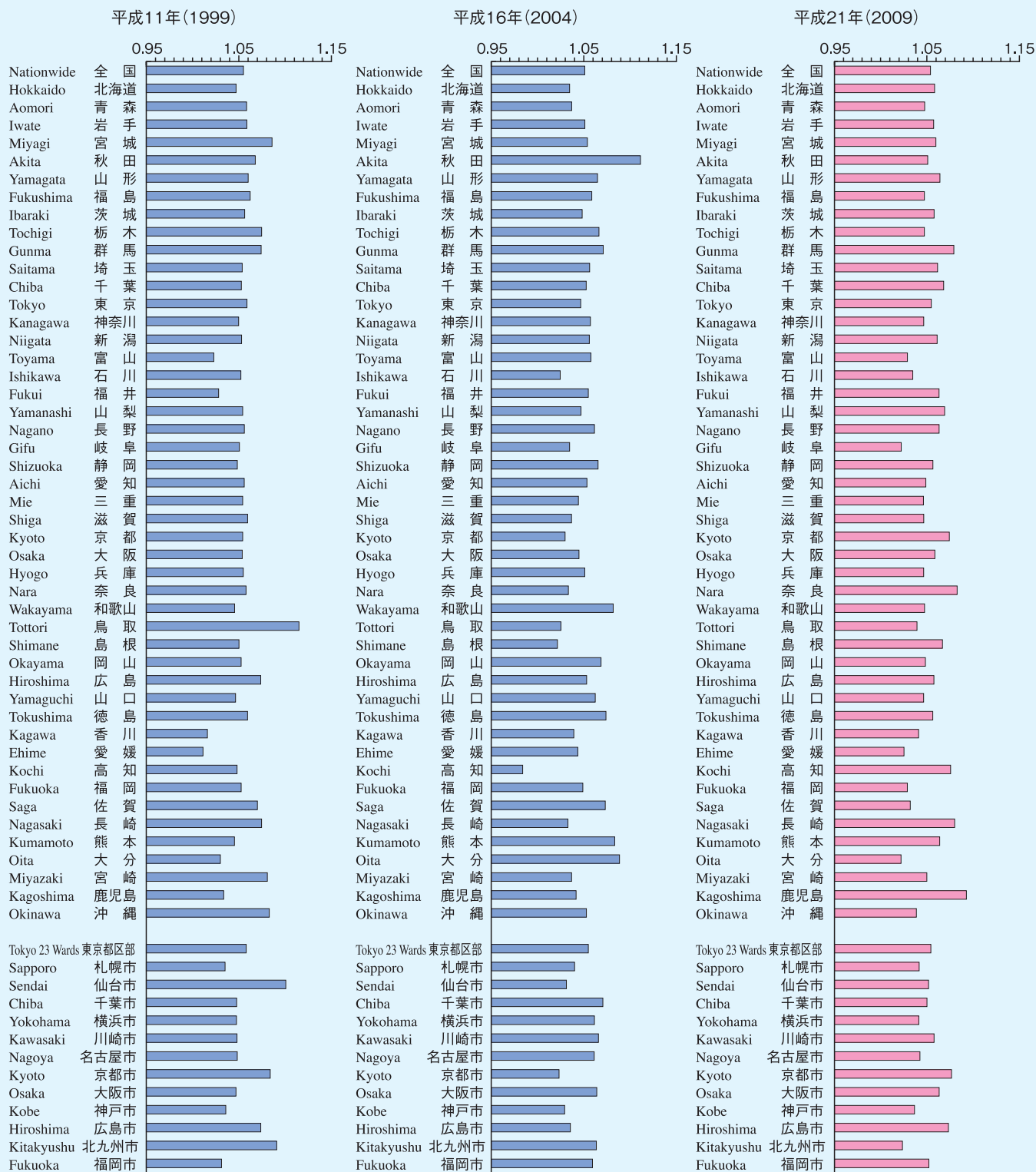
(人口動態統計)  
(Vital Statistics of Japan)

### (5) 都道府県別、出生性比 (平成21年)

Sex ratio by prefecture, 2009-1999

平成16年及び平成11年の結果は参考

出生性比(男/女) Sex ratio (male/female)

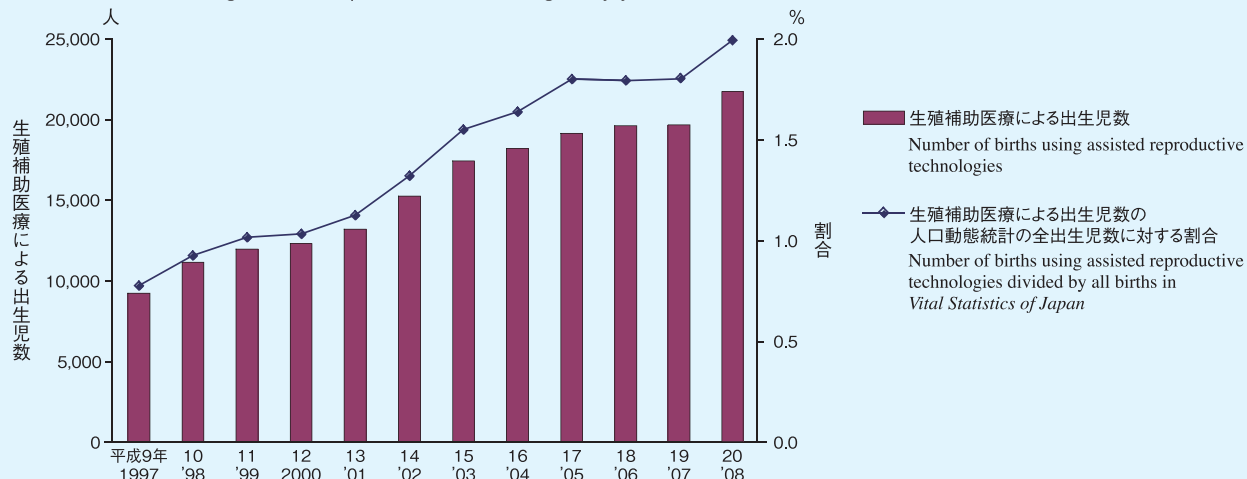


(人口動態統計) (Vital Statistics of Japan)

## 生殖補助医療 Assisted reproductive technologies

### (6) 年次別、生殖補助医療による出生児数

Number of births using assisted reproductive technologies by year



(注) 生殖補助医療による出生児数は、日本産婦人科学会で報告された出生児数である。

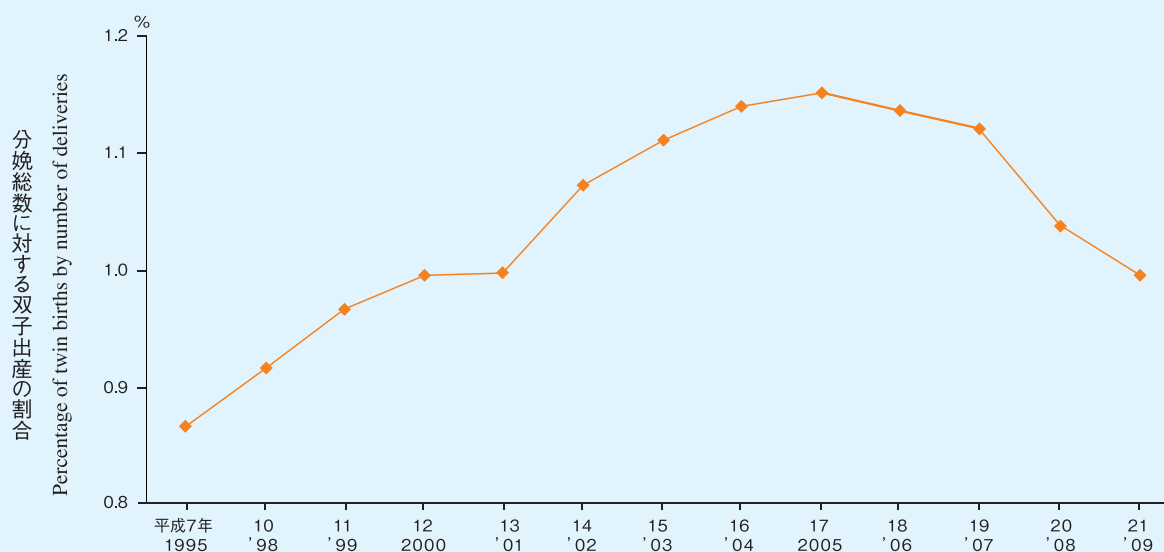
Note: The number of births using assisted reproductive technologies is the number of births reported by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology.

(人口動態統計)  
(Vital Statics of Japan)

## 双子出産の割合 (Percentage of Twin Births)

### (7) 年次別、分娩総数に対する双子出産の割合

Percentage of twin births by number of deliveries by year



(注) 分娩総数は、死産の単産、複産の不詳を含む。

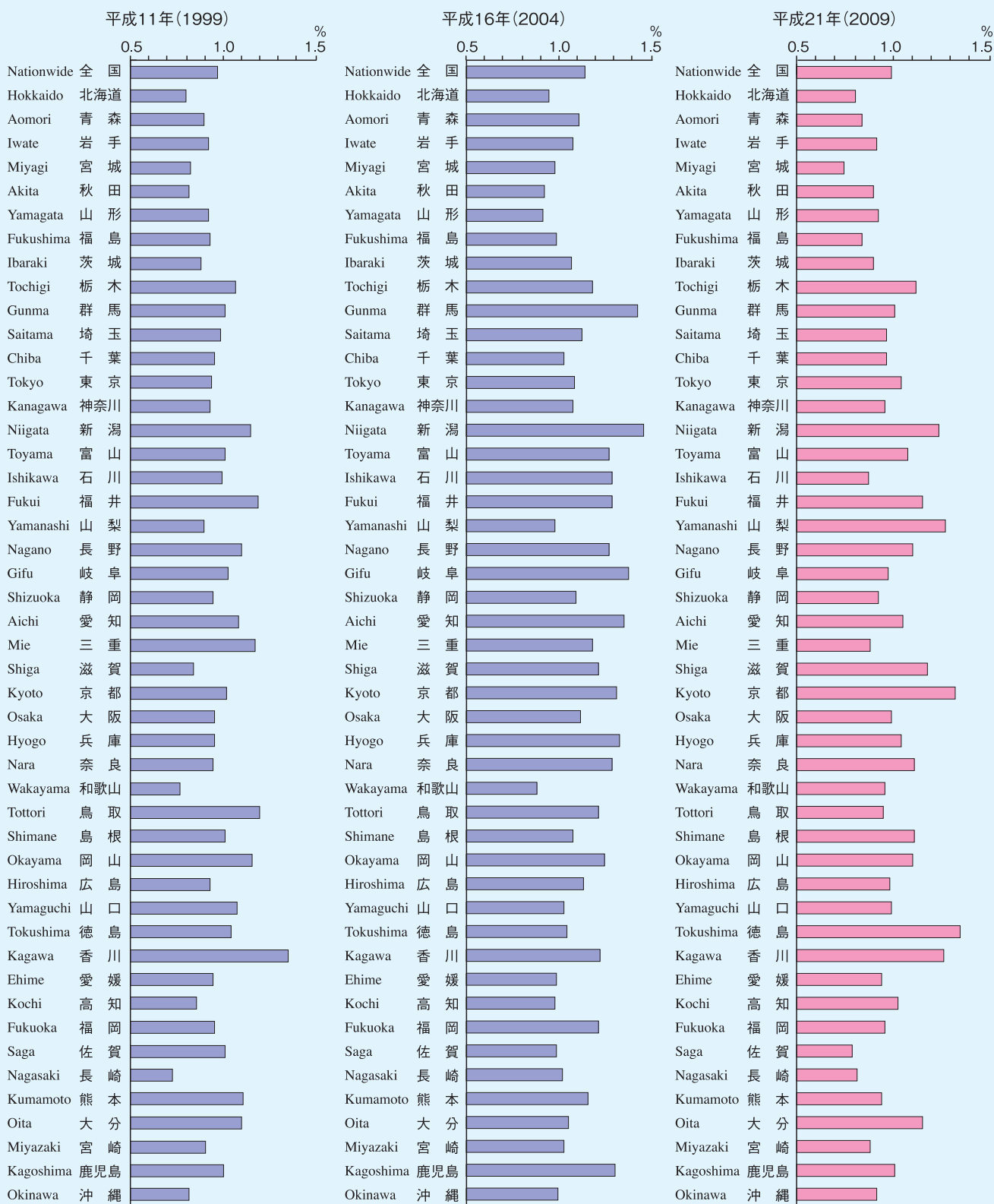
Note: Number of deliveries includes stillborn infants that are unspecified whether single or multiple births.

(人口動態統計)  
(Vital Statics of Japan)

### (8)都道府県別、分娩総数に対する双子出産の割合（平成21年）

Percentage of twin births by number of deliveries by prefecture, 2009-1999

平成16年及び平成11年の結果は参考

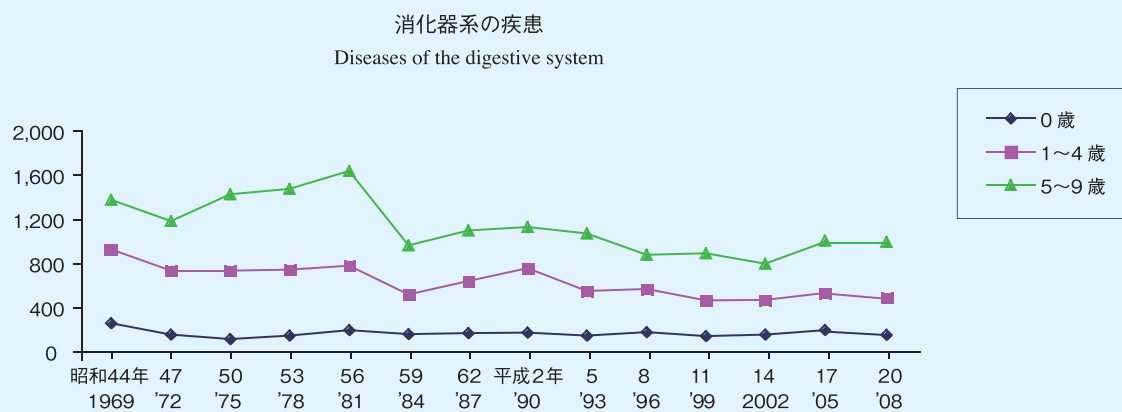
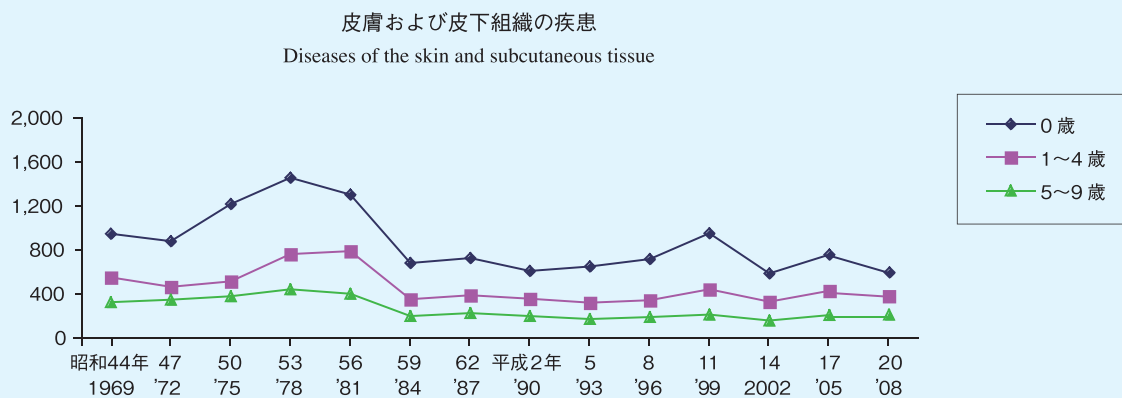
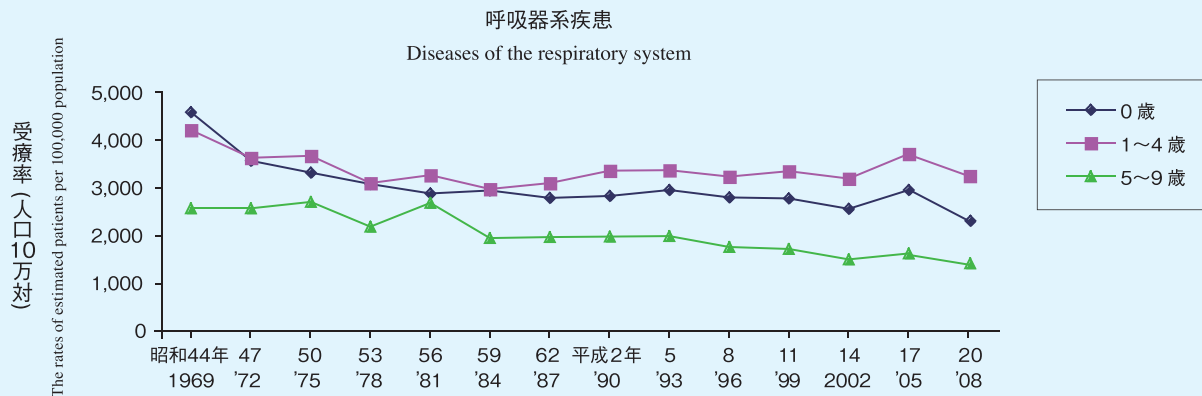


(人口動態統計) (Vital Statics of Japan)

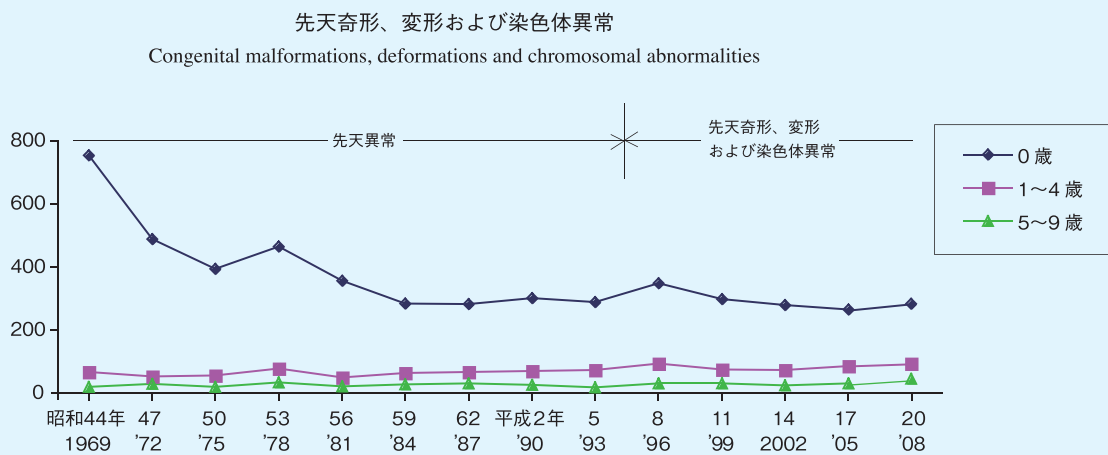
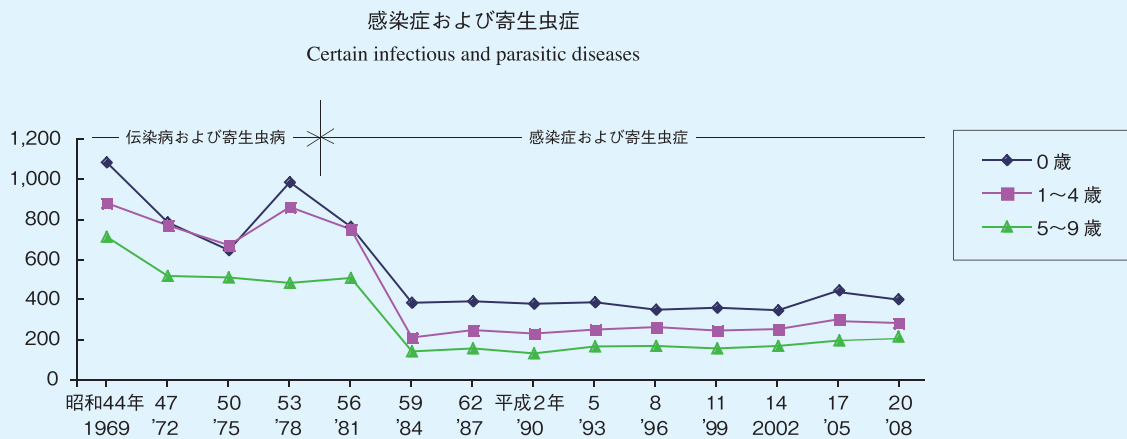
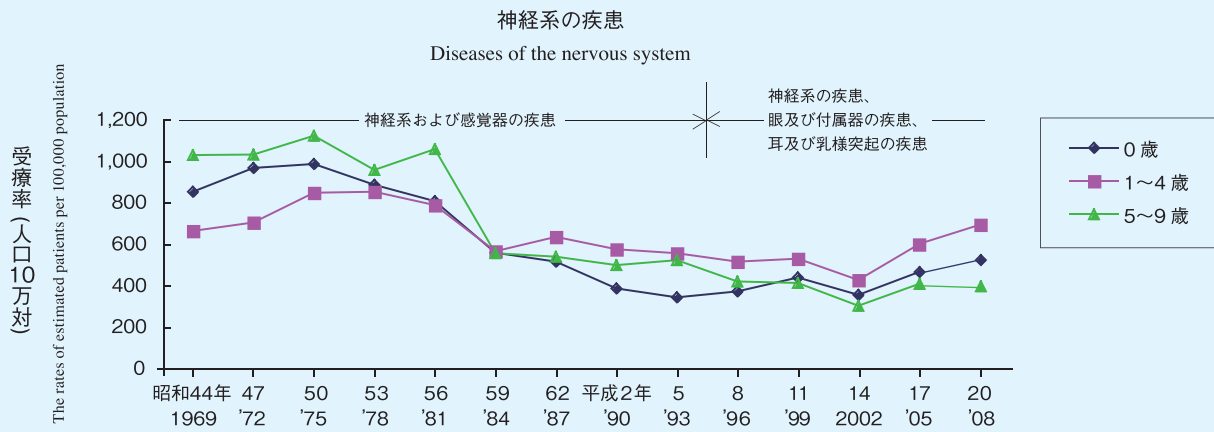
受療率 (The rates of estimated patients)

(9)年次別、年齢階級別、受療率 (人口10万対)

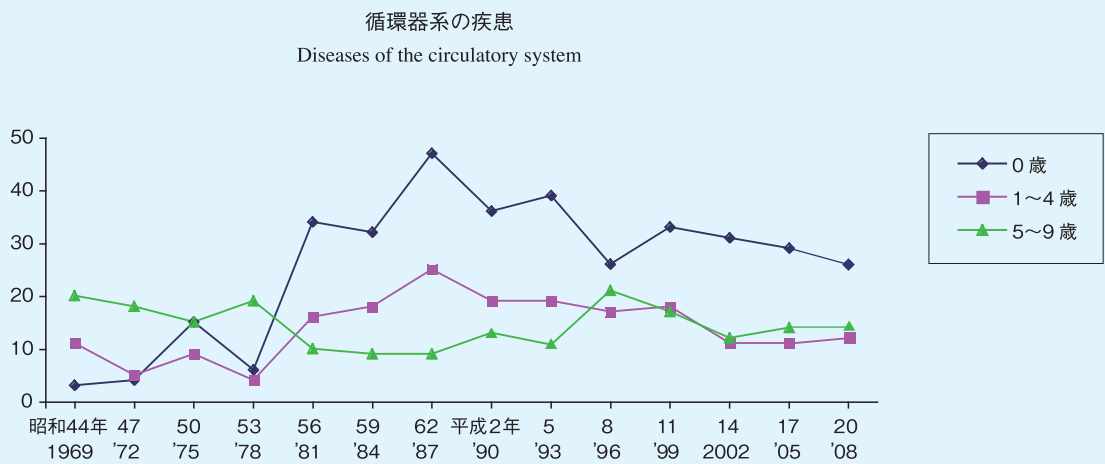
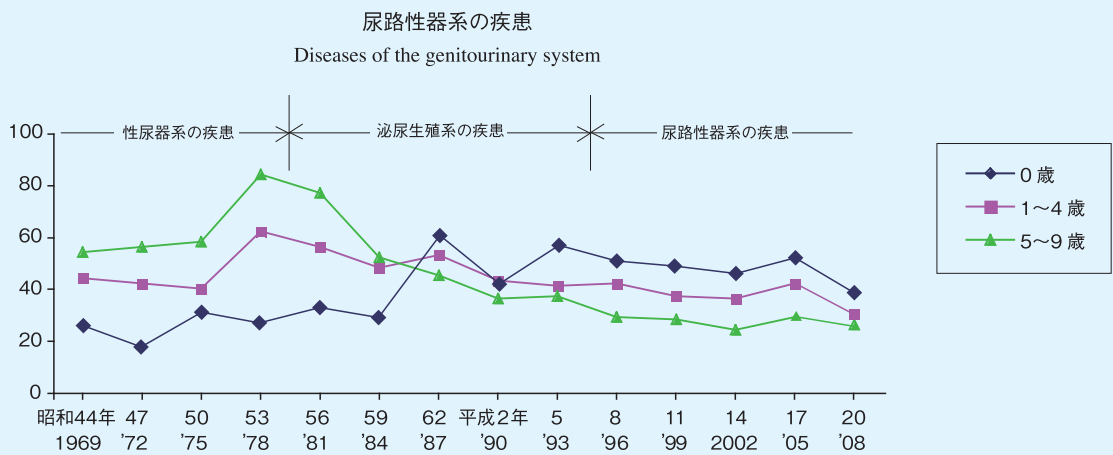
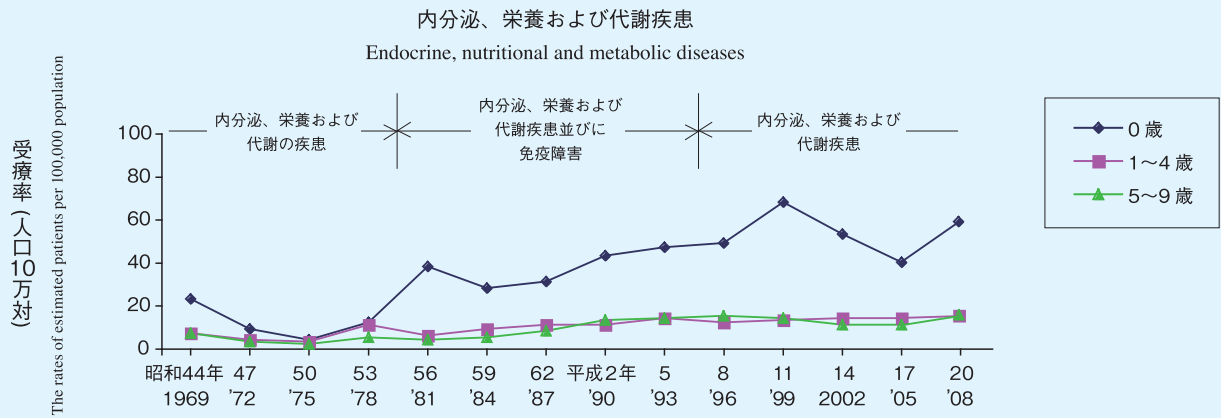
The rates of estimated patients per 100,000 population by year and age



(患者調査)  
(Patient survey)



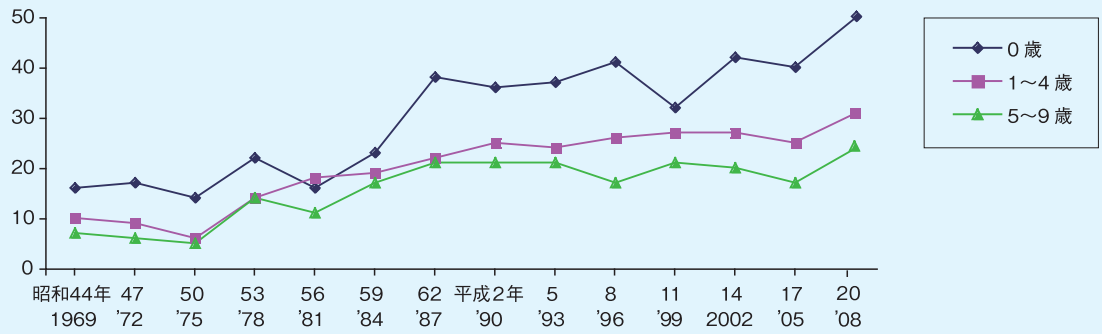
(患者調査)  
(Patient survey)



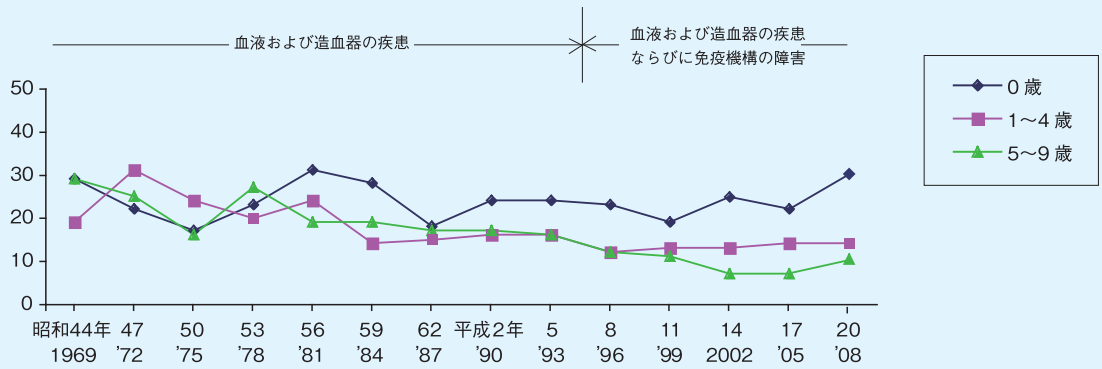
(患者調査)  
(Patient survey)

受療率 (人口10万対)  
The rates of estimated patients per 100,000 population

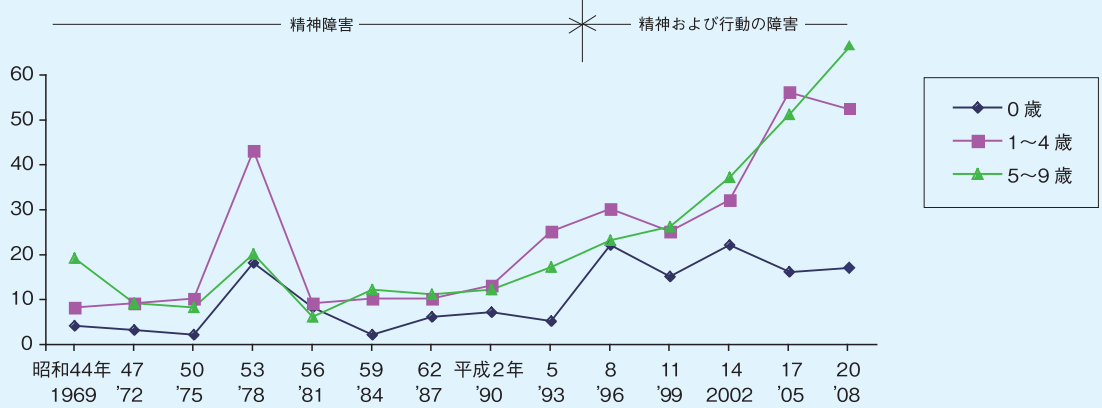
新生物  
Neoplasms



血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害  
Diseases of the blood and blood-forming organs and certain disorders involving the immune mechanism



精神及び行動の障害  
Mental and behavioural disorders



(患者調査)  
(Patient survey)

## 先天異常 (Congenital Anomalies)

### (10) 外表奇形の発生頻度 (平成 18 年度)

Prevalence rate of congenital malformations, 2006

出産児総数 Total number of births	76,322
奇形児総数 Total number of malformed infants	1,377
奇形児出産頻度 Frequency of birth of malformed infants	1.8%

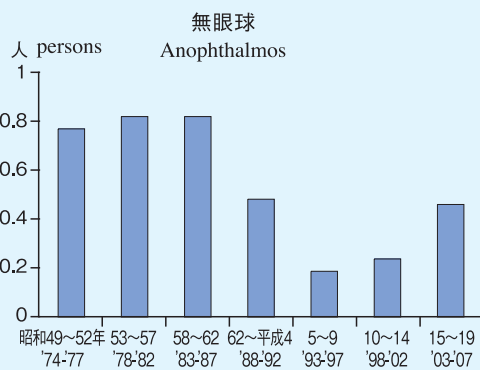
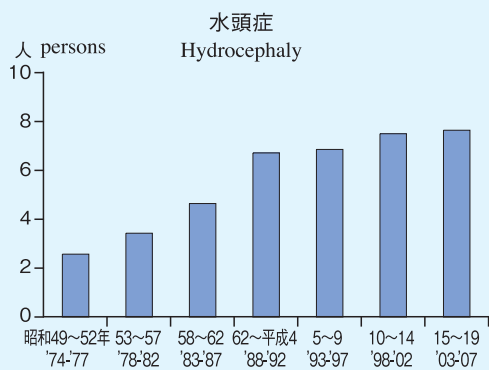
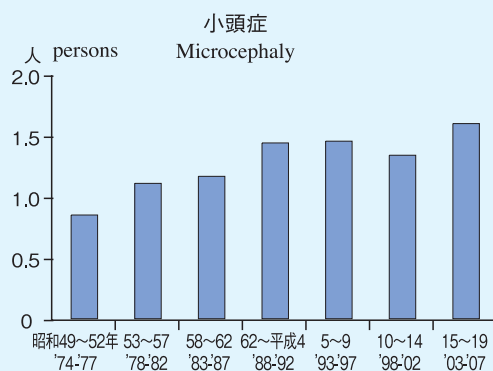
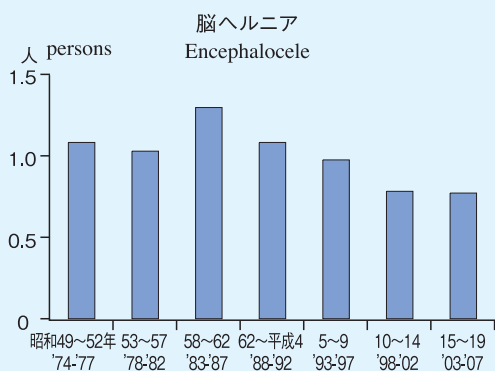
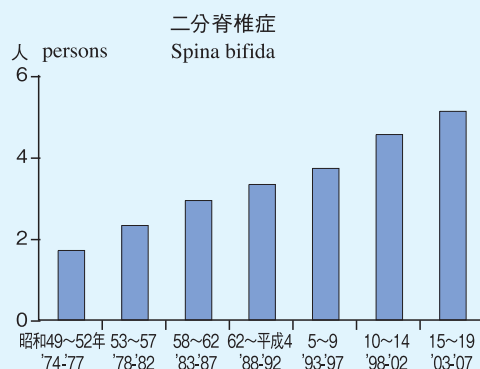
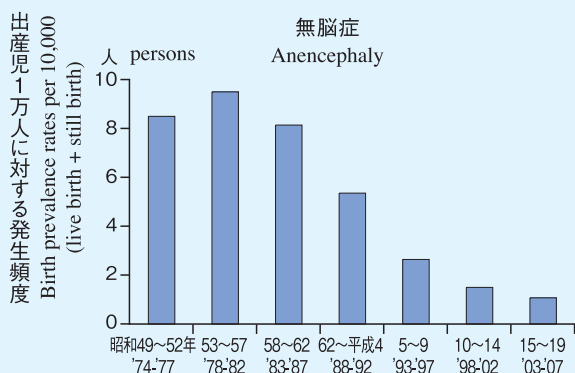
奇形種類別発生順位 (上位 20 位)  
Order of congenital malformations by type (top 20)

順位 Rank	奇形の種類 Type of congenital malformations	奇形数 (人) Number of congenital malformations(persons)	出産児1万人に対する 発生頻度 (人) Birth prevalence rates per 10,000
1	心室中隔欠損 Ventricular septal defect	205	26.9
2	口唇・口蓋裂 Cleft lip and cleft palate	11	14.7
3	耳介低位 Low-set ears	80	10.5
4	ダウン症候群 Down's syndrome	72	9.4
5	心房中隔欠損 Atrial septal defect	64	8.4
6	口唇裂 Cleft lip	62	8.1
7	動脈管開存 Patent ductus arteriosus (PDA)	52	6.8
8	十二指腸・小腸閉鎖 atresia of duodenum, atresia of small intestine	50	6.6
9	多指症:母指列 Polydactyly: Thumb	48	6.3
9	水頭症 Hydrocephaly	48	6.3
9	鎖肛 Imperforate anus	48	6.3
12	口蓋裂 Cleft palate	47	6.2
13	ファロー四徴 Tetralogy of fallot	46	6.0
14	横隔膜ヘルニア Diaphragmatic hernia	45	5.9
15	髄膜瘤 Meningocele	37	4.8
16	下顎形成不全・小顎症 Mandibular micrognathia	34	4.5
17	臍帯ヘルニア Exomphalos	32	4.2
17	大血管転位 Transposition of great arteries	32	4.2
19	耳介変形 Malformed ear	31	4.1
20	大動脈縮窄 Coarctation of aorta	30	3.9

(日本産婦人科医会 横浜市国際先天異常モニタリングセンター 資料による(禁無断転載))  
(Japan Association of Obstetricians and Gynecologists, Yokohama City University ICBSR Japan center)

## (11) 年次別、先天異常の発生頻度

Prevalence rate of congenital anomalies by year



「無脳症」—— 先天的に脳のほとんどが欠如した状態である。皮膚、頭蓋骨なども欠損するため脳組織が直接露出する。

「二分脊椎症」—— 背骨の形に生まれつき異常があり、本来背骨の中の脊柱管にあるべき脊髄神経が骨の外にあるために、さまざまな神経障害がおこる状態である。

「脳ヘルニア」—— 本来の頭蓋内空間から脳組織がはみ出している状態である。

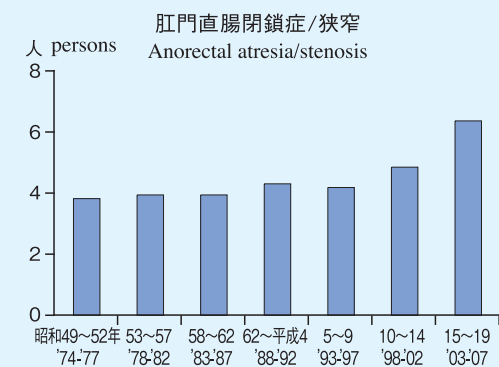
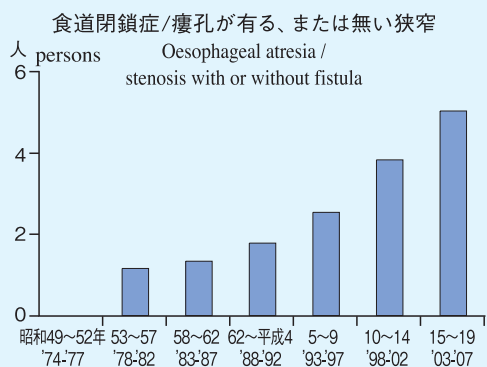
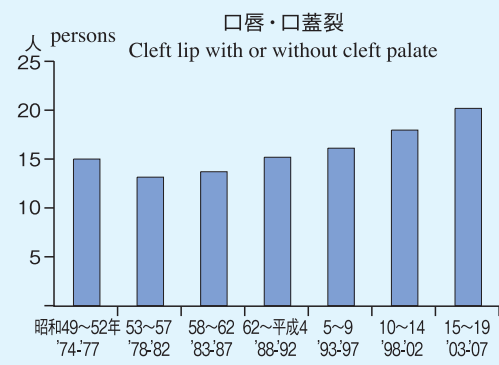
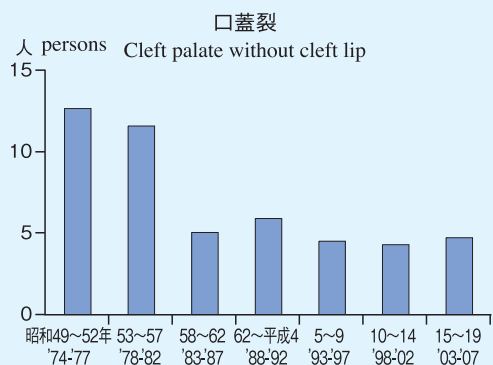
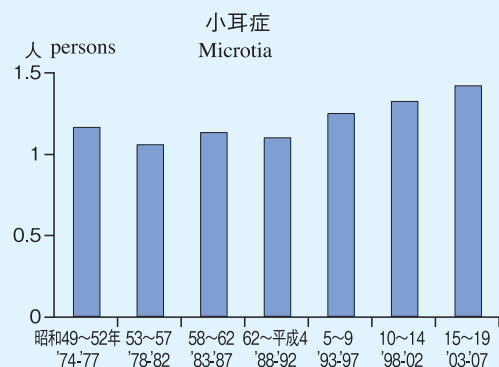
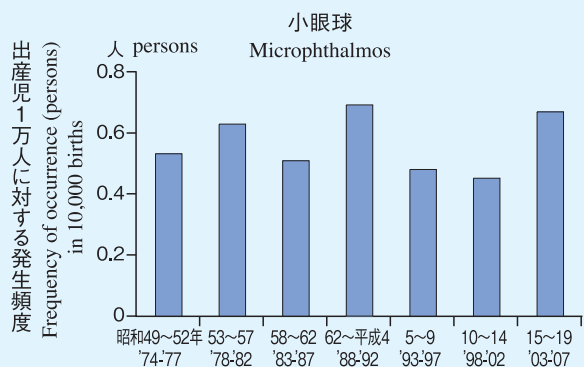
「小頭症」—— 脳の発達が悪く、頭囲が小さい状態である。

「水頭症」—— 頭蓋内腔に脳脊髄液が異常に多量に貯まった状態である。先天性水頭症の場合、頭囲増大、視神経萎縮、発育遅滞などがみられる。

「無眼球」—— 先天的に眼球が無い状態である。

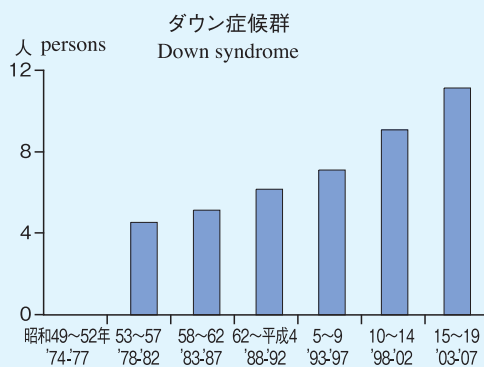
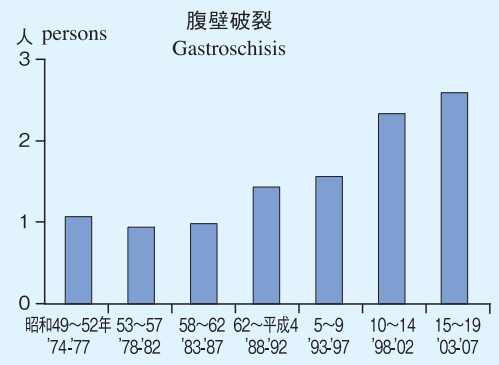
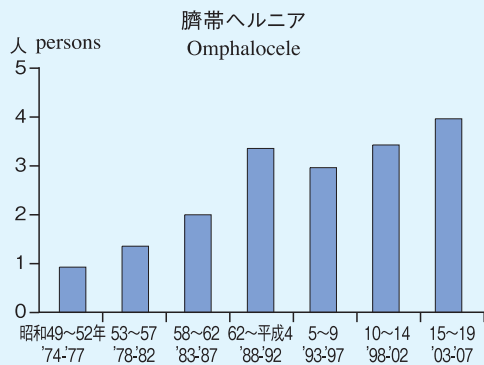
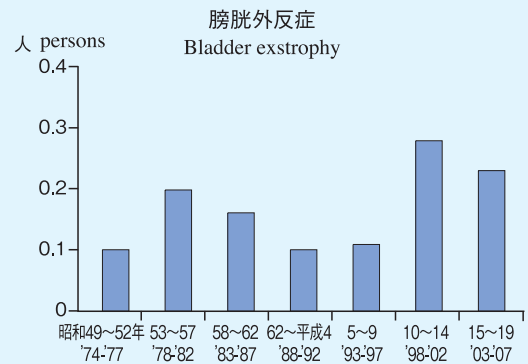
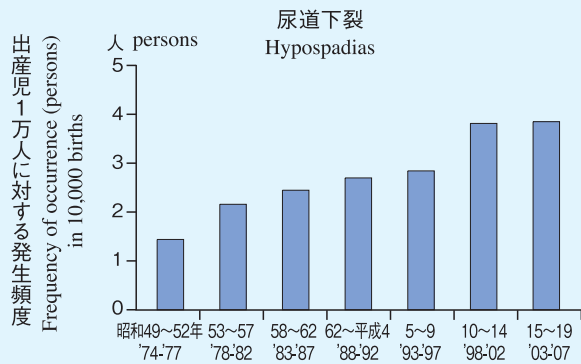
(国際先天異常調査研究機構年次報告 2009 (データは2007年))

(International Clearinghouse for Birth Defects Surveillance and Research (ICBDSR) Annual Report 2009 (with data for 2007))



- 「小眼球」—— 先天的に眼球の大きさが小さい状態である。
- 「小耳症」—— 先天的に耳が正常に作られなかった状態である。形は正常で大きさが小さいものから、小さなしわ状隆起となるものまで様々である。外耳道の先天性閉鎖や中耳の発育不全を伴うことが多く、その場合は難聴をひきおこす。
- 「口蓋裂、口唇裂」—— 先天的におこる顔面裂である。口蓋裂は口の中の天井に裂け目があり、それが鼻へと続いている状態であり、口唇裂は唇に裂け目がある状態である。口蓋裂と口唇裂はしばしば同時におこる。
- 「食道閉鎖症」—— 先天的に食道が途中で閉鎖し、胃とつながっていない状態である。
- 「直腸肛門奇形」—— 先天的に肛門が正常に作られなかった状態である。おしりに肛門が開いていないものから、小さな穴がみられるものや、肛門の位置がずれているものなど、様々な形態がある。

(国際先天異常調査研究機構年次報告 2009 (データは2007年))  
(International Clearinghouse for Birth Defects Surveillance and Research (ICBDSR) Annual Report 2009 (with data for 2007))



「尿道下裂」—— 先天的に尿道口が亀頭の先端に開口せず、陰茎の腹側や会陰部に開口している状態である。

「膀胱外反症」—— 先天的に膀胱が完全に閉じないで、腹部の表面に開いている状態である。尿が尿道からではなくその開口部から漏出する。

「臍帯ヘルニア」—— 先天的に腹壁が形成されず、臍帯(へその緒)の中に腹膜と共に臓器(胃や腸、肝臓など)が飛び出した状態である。

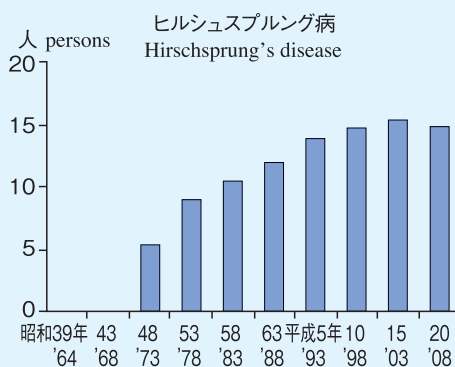
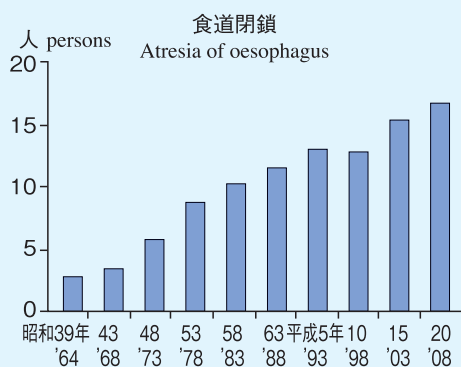
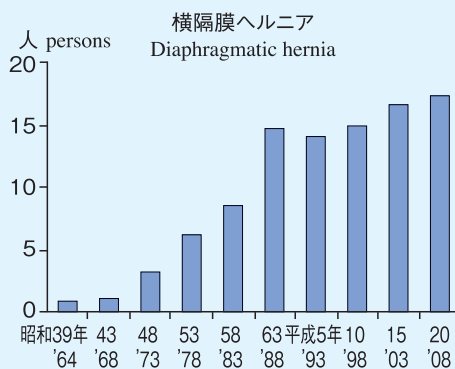
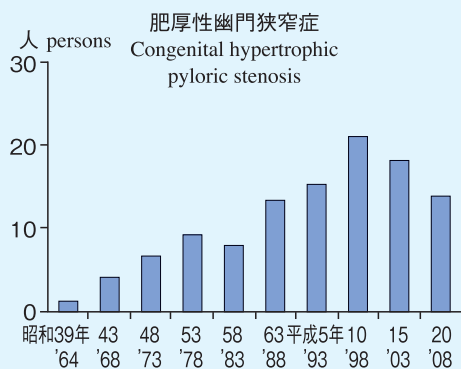
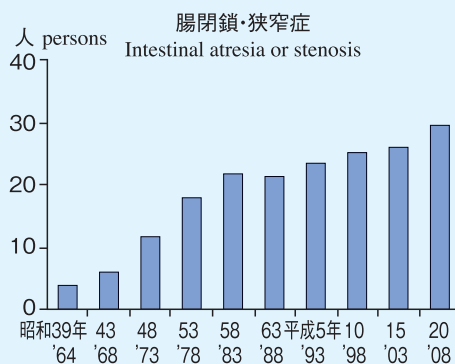
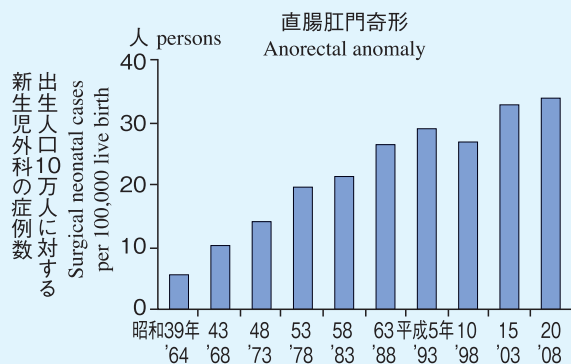
「腹壁破裂」—— 先天的に腹壁全層を欠損しており、腹壁に穴があいているために、臓器(小腸・胃など)が体外に飛び出した状態である。

「ダウン症候群」—— 第21番染色体が1本過剰であるためにおこる症候群である。精神発達遅滞、特異な顔貌、多発する大小の奇形などが主な症状である。心合併症が約1/3にみられる。

(国際先天異常調査研究機構年次報告 2009 (データは2007年))  
 (International Clearinghouse for Birth Defects Surveillance and Research (ICBDSR) Annual Report 2009 (with data for 2007))

## (12)年次別、新生児外科の症例数

Surgical neonatal cases by year



「腸閉鎖・狭窄症」—— 腸閉鎖は、先天的に腸（十二指腸、空腸、回腸）の一部が途切れている状態であり、腸狭窄は、腸が狭くなっている状態である。これらをあわせて腸閉鎖症・狭窄症という。

「肥厚性幽門狭窄症」—— 先天的に幽門（胃が十二指腸に移行する部分）部の筋肉が肥厚する（厚くなる）状態である。幽門筋が肥厚するために胃の出口が狭くなり、生後2～3週間から嘔吐する。便秘、脱水、体重増加不良も見られる。

「横隔膜ヘルニア」—— お腹と胸を分けている横隔膜に穴があいている状態であり、この穴から小腸、大腸、胃、脾臓、肝臓などが胸に入り込み、肺を圧迫するために呼吸困難が生じる。

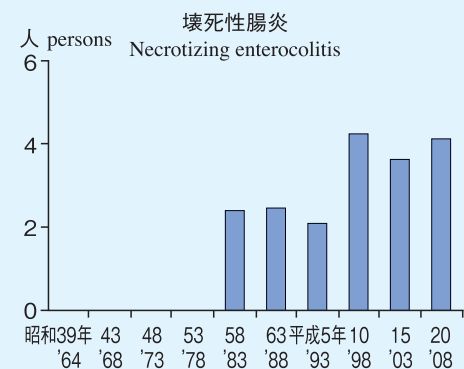
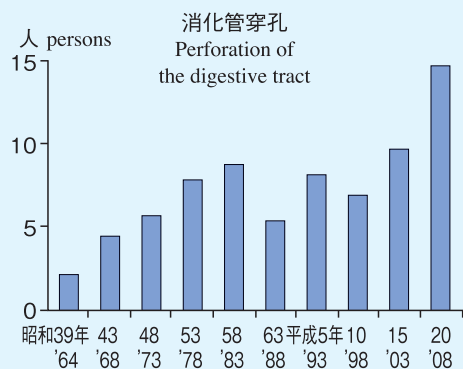
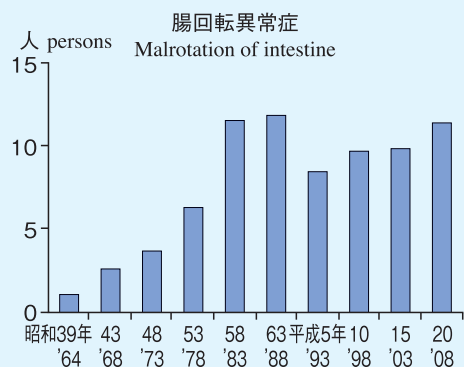
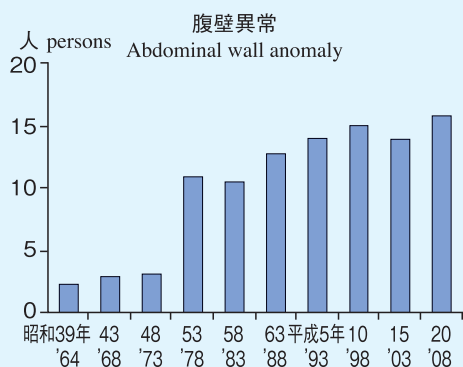
「食道閉鎖症」—— 先天的に食道が途中で閉鎖し、胃とつながっていない状態である。

「ヒルシュスプルング病」—— 先天的に、消化管の動きを制御する力を持っている腸の神経節細胞が部分的に無いために、重い便秘症や腸閉塞をおこす疾患である。

「直腸肛門奇形」—— 先天的に肛門が正常に作られなかった状態である。おしりに肛門が開いていないものから、小さな穴がみられるもの、肛門の位置がずれているものなど、様々な形態がある。

(日本小児外科学会雑誌に掲載された新生児外科の症例数を人口動態統計の出生数で除した値)  
(Number of cases of neonatal surgery reported in the journal of the Japanese Society of Pediatric Surgeons divided by all births in Vital Statistics of Japan)

出生人口10万人に対する  
新生児外科の症例数  
Surgical neonatal cases  
per 100,000 live birth



「腹壁異常」—— 先天的に腹壁が正常に作られず臓器が飛び出した状態である。臍帯ヘルニア及び腹壁破裂が主な疾患である。

「腸回転異常症」—— 新生児で長さ1.5～2mある小腸の腸管が、お腹の中うまく納まるために胎生6週から11週頃に腸管の発生過程で回転し固定されるが、この回転が不十分なために起こる腸管の障害である。

「消化管穿孔」—— 消化管(食道・胃・十二指腸・小腸・大腸)の壁に穴が開き、消化液や食物・便などが漏れ出す状態である。低出生体重児では、重篤な腸炎に伴って発生する場合と、生後数日目に突然発生する二種類がある。

「壊死性腸炎」—— 腸への血液の流れが障害され、それに細菌などの感染が加わることにより腸が壊死する状態である。早産児や低出生体重児におこる危険性が高い。ミルクの飲みが悪くなる、お腹が張るなどの症状から始まり、血便や血圧下降などを引き起こす。

(日本小児外科学会雑誌に掲載された新生児外科の症例数を人口動態統計の出生数で除した値)

(Number of cases of neonatal surgery reported in the journal of the Japanese Society of Pediatric Surgeons divided by all births in Vital Statistics of Japan)